

第9回 保険の仕組み—保険募集の意義、 保険事業の機能・収益構造

- 1 保険募集の意義
- 2 保障・補償の機能とリスクの移転・分散のシステム
- 3 保険のハイブリッド的構造：保障・補償と資産運用
- 4 保険事業の収益構造

キーワード： *問題課題発見の支援、保険引受・資産運用、三つの利源*

損保ジャパン総合研究所 小林篤

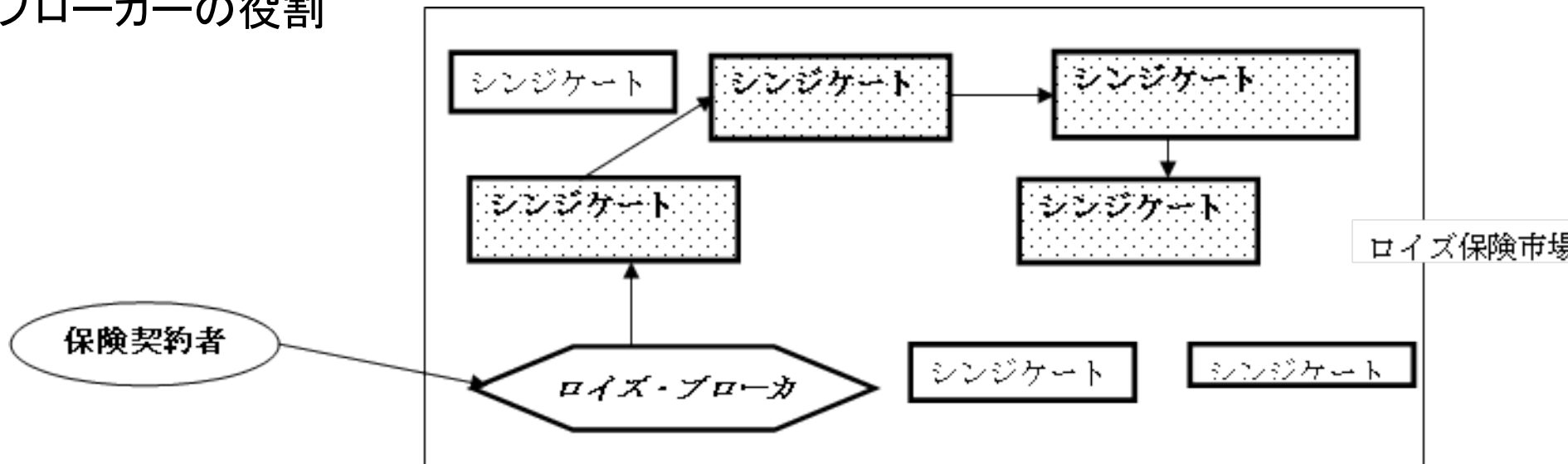
2013年6月13日

1 保険募集の意義

(1) 保険事業の必要条件

大数の法則が働く、リスクのプールを組成

保険市場に多くのシンジケートが存在するロイズ保険市場における
ブローカーの役割



1 保険募集の意義

(2) 顧客の個別課題の発見

保険はニーズ喚起が必要な商品；

PUSH とPULL

PULL: 消費者が商品棚から取ってお金を払う商品・サービス

PUSH: 目に見えず、説得が必要な商品・サービス

○ 保険はニーズ喚起が必要な商品

保険募集＝保険の必要性について考えたくない

⇒ 将来の保障・補償の必要性を

気づかせる活動(面談活動など)

○ 顧客の課題発見の支援

顧客のニーズは同一か、個々の状況、環境によって異なるか

個別の問題解決のために、多様な商品・サービスの選択肢を提供

1 保険募集の意義

(2) 顧客の個別課題の発見

顧客の課題発見の支援

○顧客の課題発見の支援

顧客のニーズは同一か、個々の状況、環境によって異なるか

個別の問題解決のために、多様な商品・サービスの選択肢を提供

民間保険・任意保険

任意加入

多くの選択肢

顧客の個別課題

課題発見の支援

説得のコスト

社会保険・強制保険

強制加入

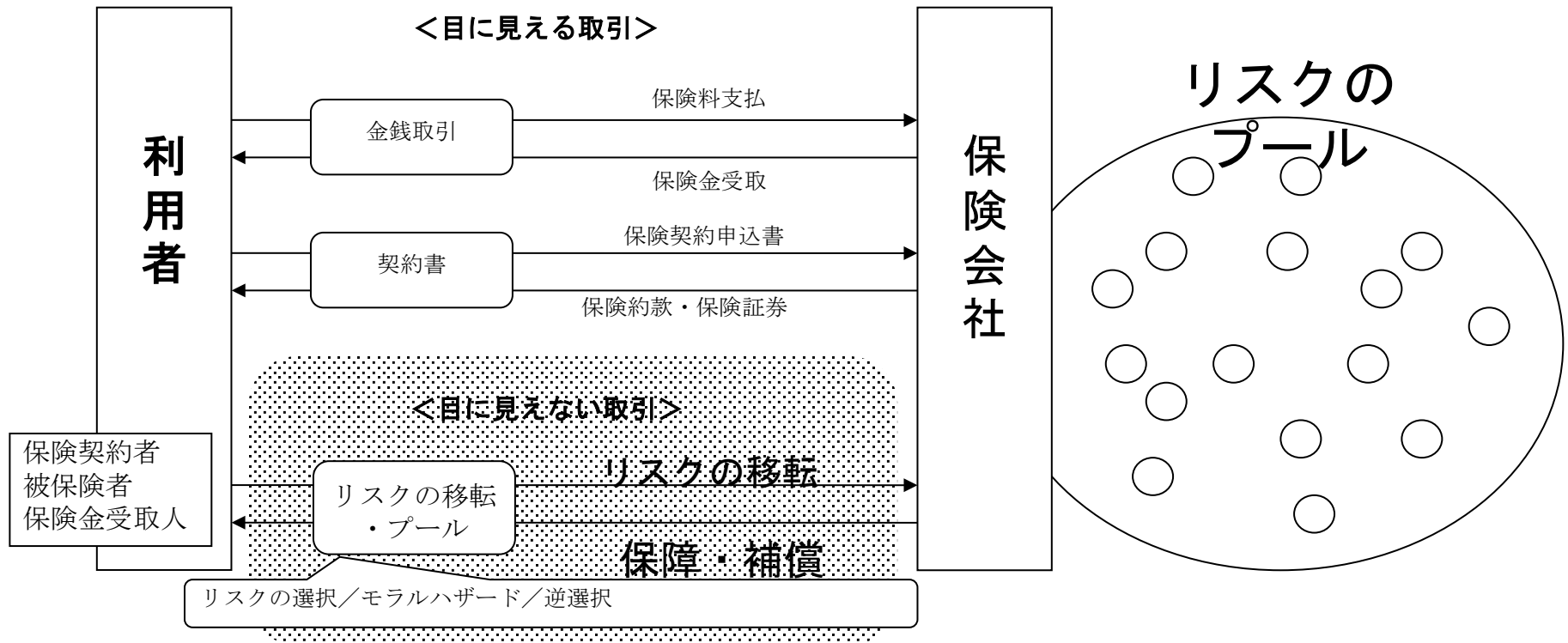
単一・少数の選択肢

社会的共通課題

説得不要

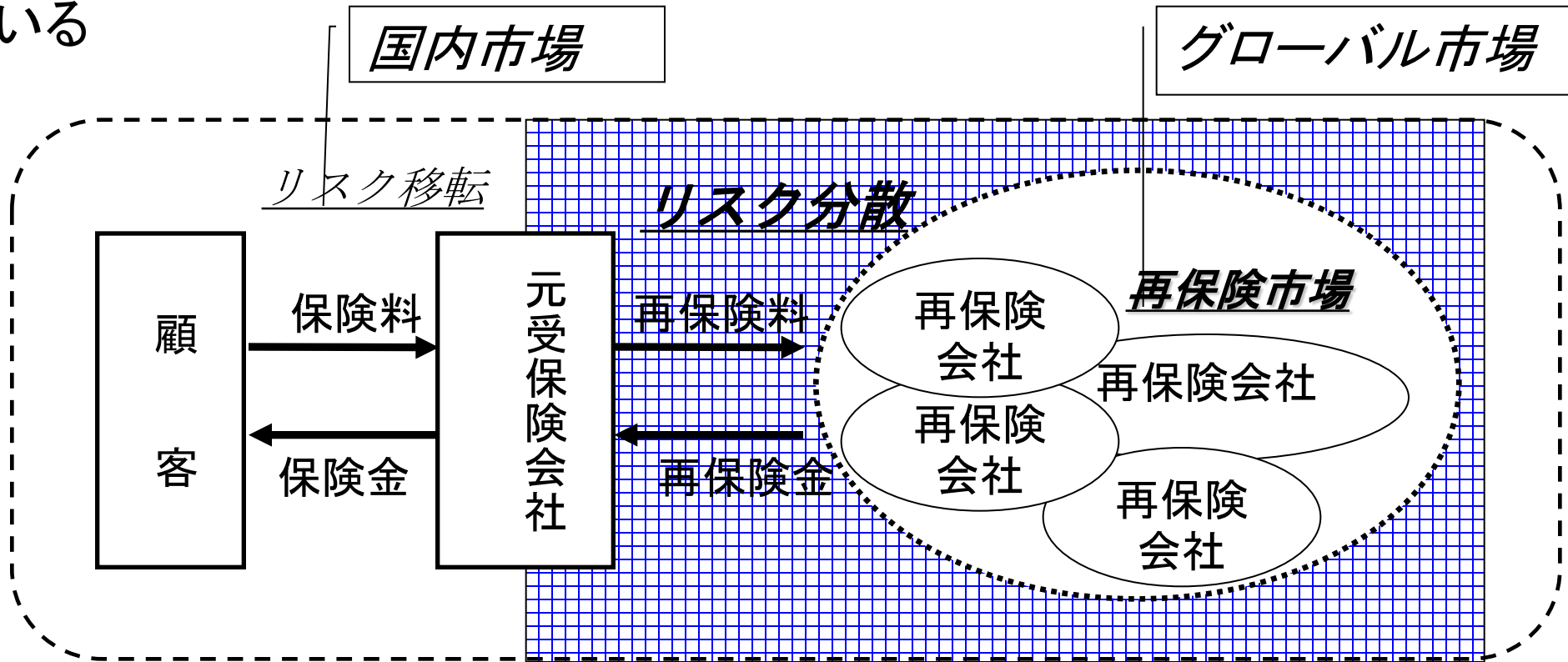
2 保障・補償の機能と リスクの移転・分散のシステム

保障・補償を実現する機能は、リスクの移転とプールのシステムによる



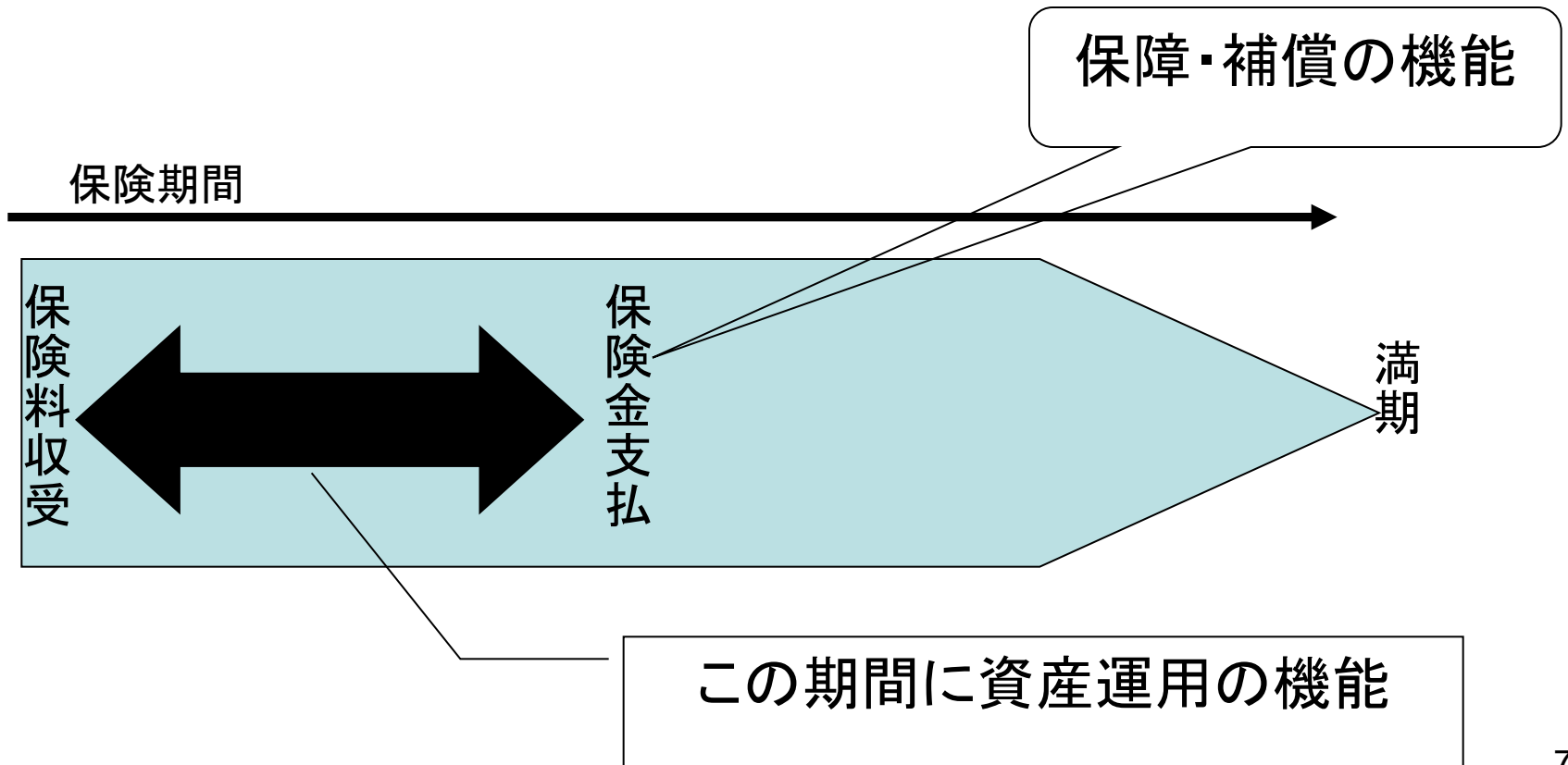
2 保障・補償の機能と リスクの移転・分散のシステム

保障・補償を実現する機能は、リスクの分散のシステムに支えられている



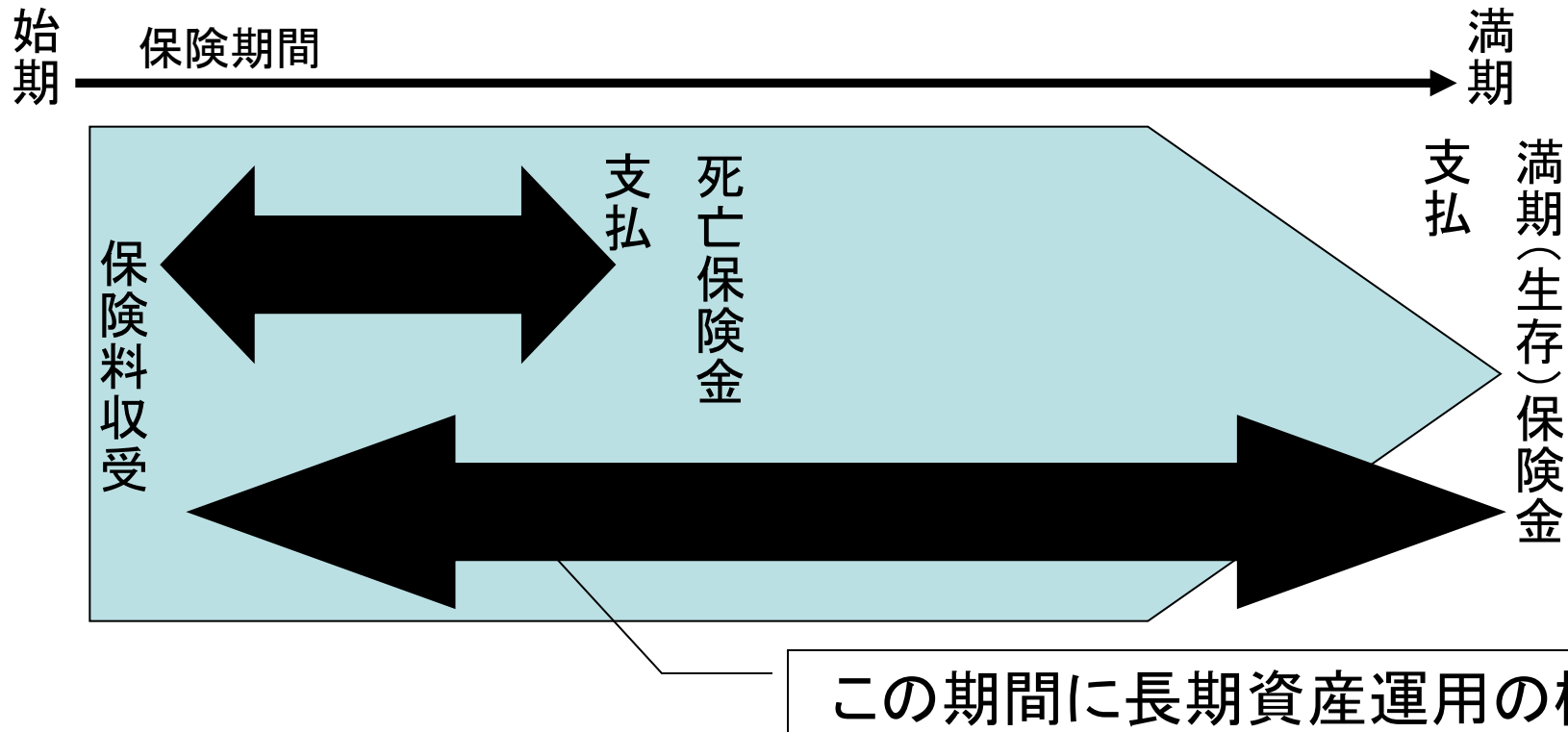
3 保険のハイブリッド的構造： 保障・補償と資産運用

ほとんどの場合、保険料と保険金の支払いに時間差
保険料・保険金支払の時間差は、資産運用の機会



3 保険のハイブリッド的構造： 保障・補償と資産運用

長期性保険は、保障・補償機能＋長期性資産運用機能のハイブリッド的構造。生存保険金は、長期貯蓄に近い機能

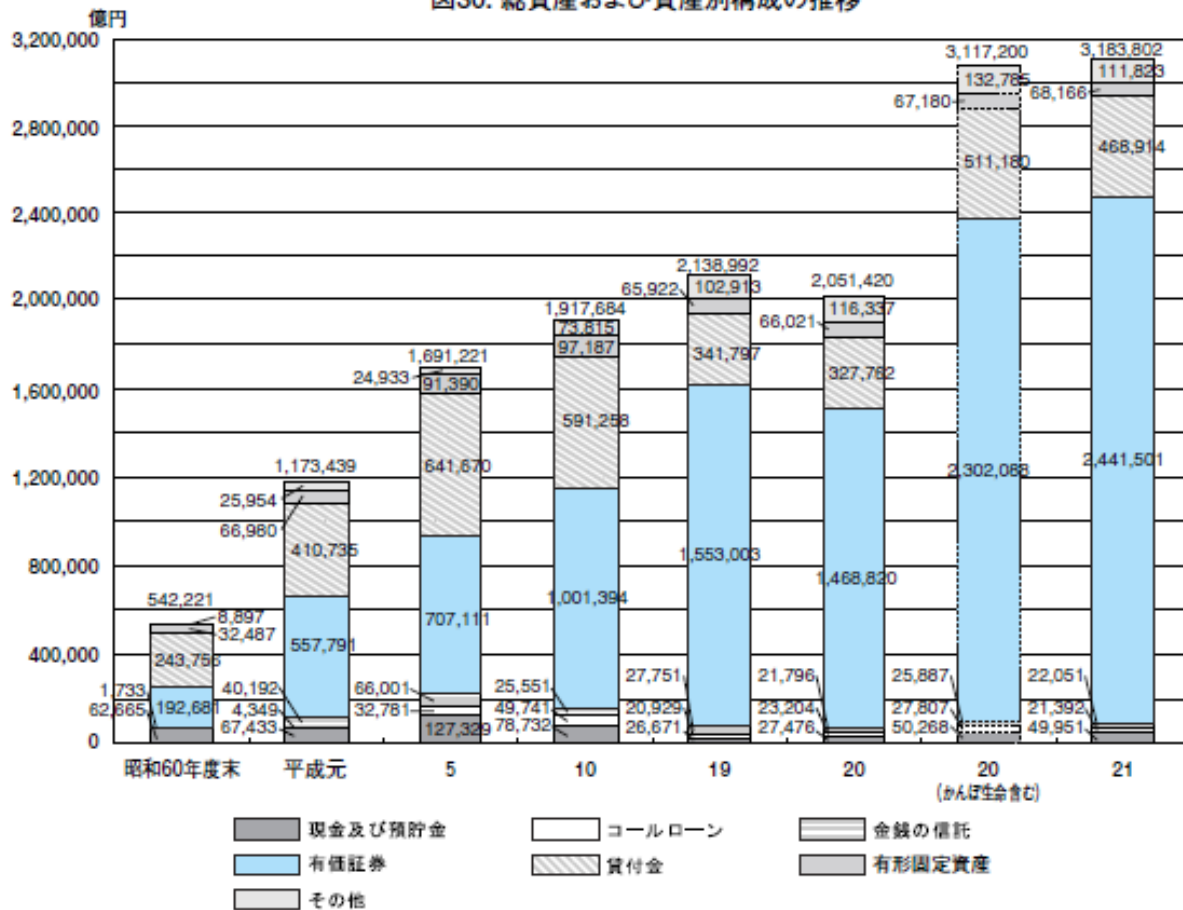


3 保険のハイブリッド的構造： 保障・補償と資産運用

生命保険会社は、金融市場（資本市場）の有力なプレイヤー

- ・生保会社全社の総資産は318兆3,802億円
- ・資産構成：76.7%が有価証券（244兆1,501億円）。貸付金は、有価証券に次いで全体の14.7%
- ・長期性資金運用の主要プレイヤー

図30. 総資産および資産別構成の推移



（出典：生保協会二〇一〇年版『生命保険の動向』）

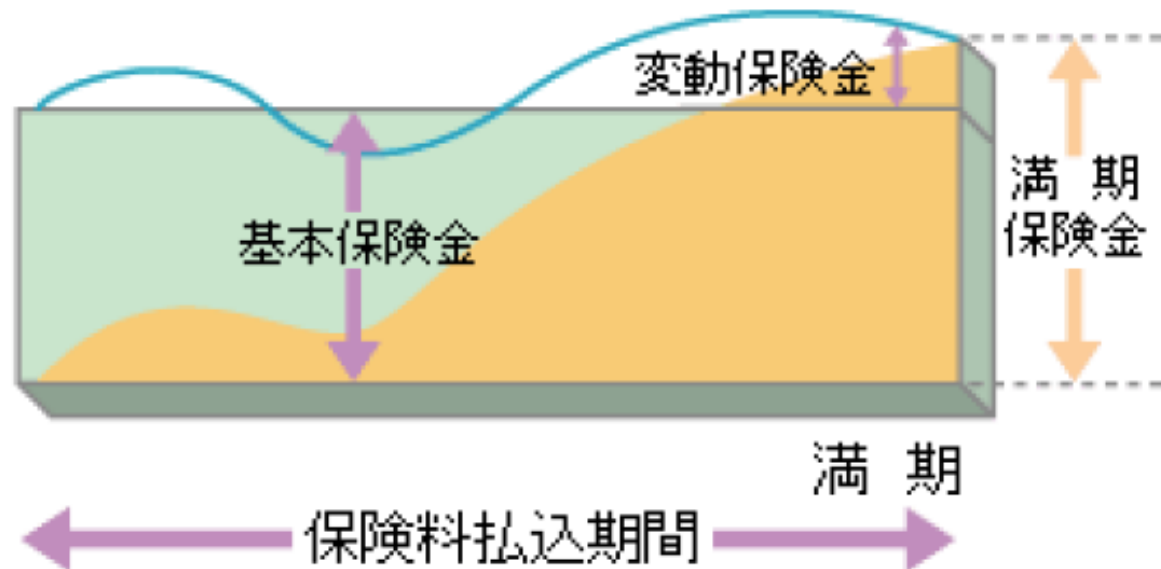
3 保険のハイブリッド的構造： 保障・補償と資産運用

長期性保険の投資性を高めた変額保険。一般の保険では、保険会社が確定利回りを保証するが、変額保険では保証しない面がある。

満期保険金(生存保険金)の運用を株式投資信託と同じように運用

(一般の保険とは区分経理、分離運用)

(1) 満期時に満期保険金が基本保険金を上回った場合



(出典: 生命保険文化センター「変額保険とは」(http://www.jili.or.jp/knows_learn/q_a/life_insurance/life_insurance_q3.html))

3 保険のハイブリッド的構造： 保障・補償と資産運用

「変額保険」と「定期生命保険＋株式投信」との違い

Buy term and invest the difference

死亡保障の期間が
有期(終身でない)

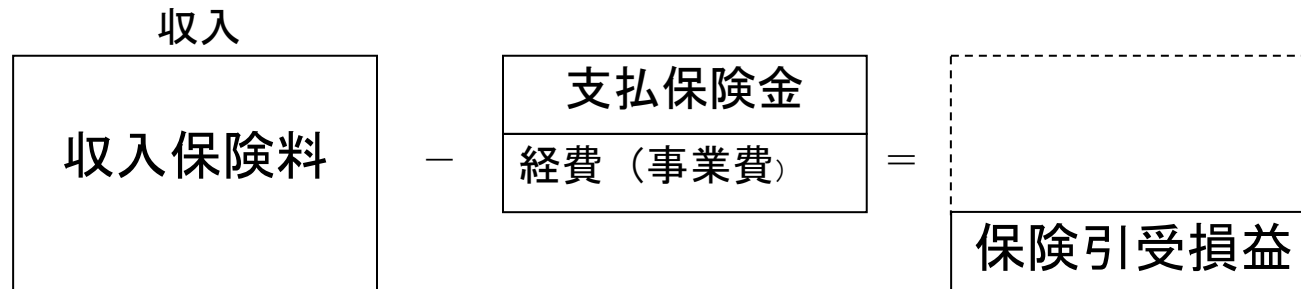
《米》定期保険を買って差額を投資せよ((終身保険等を買うくらいなら、同じ保障額を定期保険の購入で確保し、保険料負担が安くてすんだその差額分を保険よりも利回りの有利な貯蓄/投資手段に回した方が利用者にとって有利である。米国生保業界における長期にわたる“定期保険対長期保険論争term versus permanent argument”の中の定期(主義)派の格言。

(出典：生命保険文化センター・英和生命保険用語辞典)

4 保険事業の収益構造

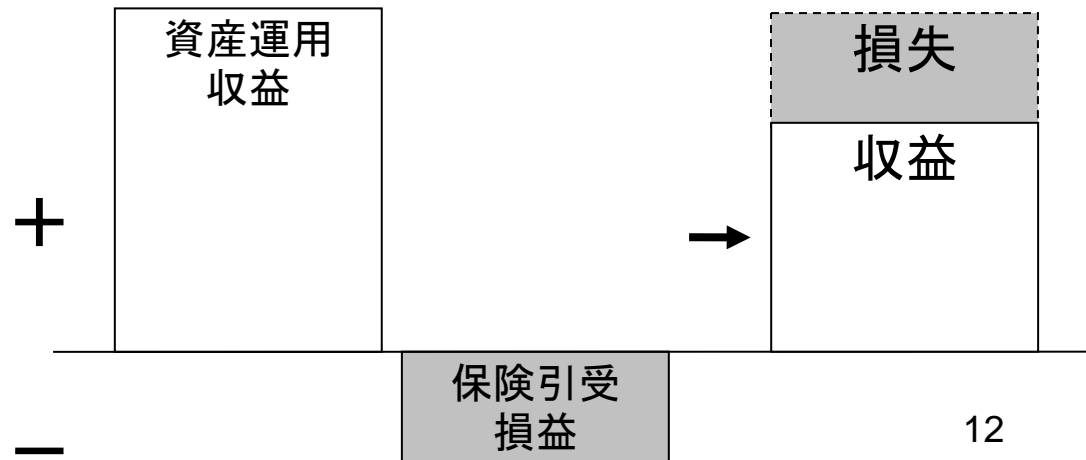
保険会社の収益構造と特徴；資産運用収益も重要な要素

損害保険では、保険引受損益（収入保険料－支払保険金－事業費で算出）と資産運用収益の両方で収益を上げる構造



資産運用収益＋保険引受損益

→ 保険引受損益がマイナスでも、最終的に収益を確保可能。



4 保険事業の収益構造

生命保険の三利源

・利源：保険料算出時の基礎率と、実際の結果との差

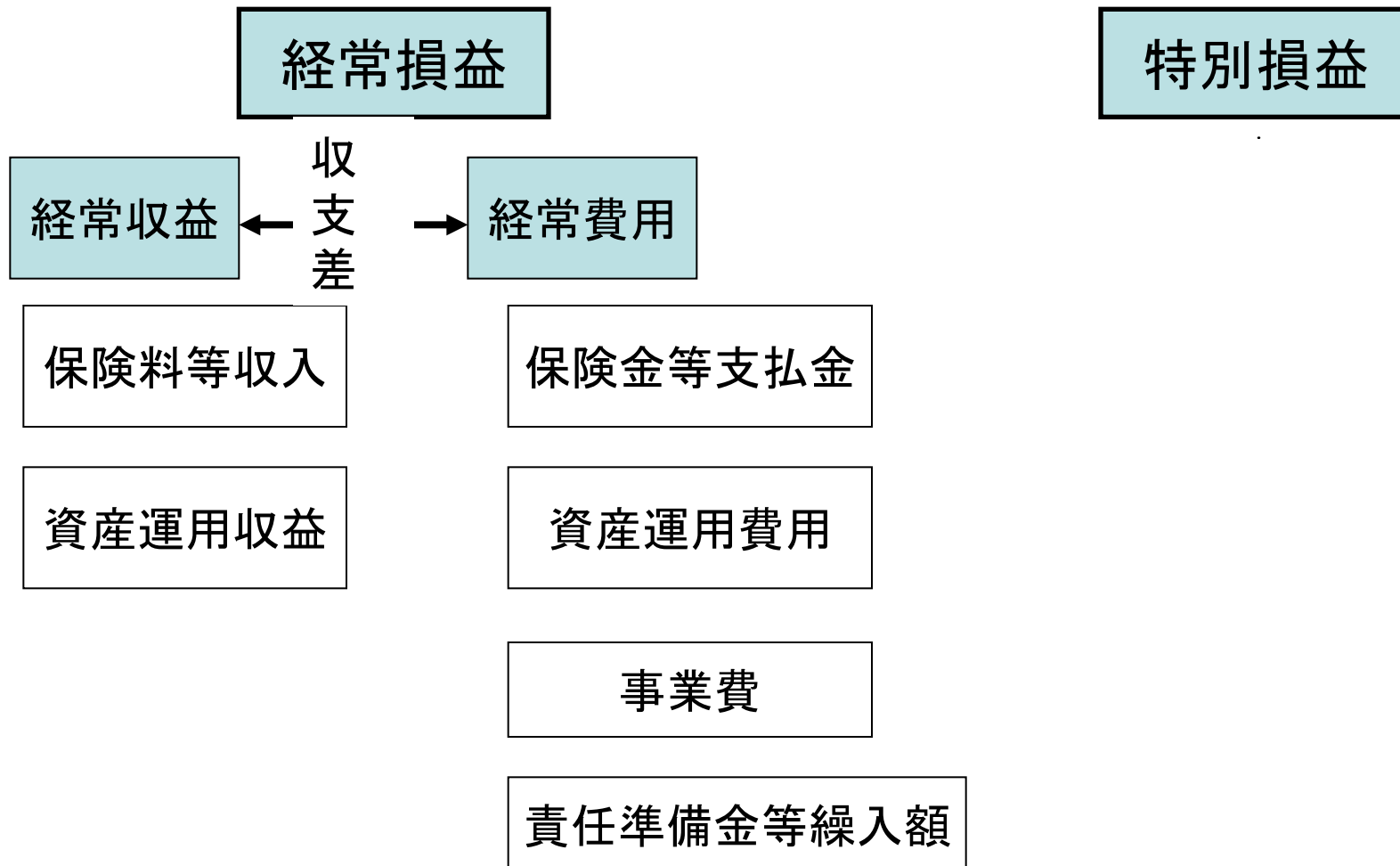
・費差益、死差益、利差益の三つの利源

生命保険料を計算する元となる基礎率	基礎率と実際の結果の差：保険会社の利益の源泉
<p>予定死亡率：多数の人々のうち、1年間に死亡する人数の割合。過去の統計をもとに予測し、将来の保険金の支払いにあてるために必要な保険料を算定</p>	→ 死差益（損）： 予定死亡率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額
<p>予定利率： 資産運用による運用収益を見込み、その分保険料を割り引く。</p>	→ 利差益（損）： 予定利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益の差額
<p>予定事業費率： 保険会社の事業の運営上必要となる経費（＝事業費）を見込んで、保険料に組み込む。</p>	→ 費差益（損）： 予定事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出との差額

・剰余金を計算し、剰余金のなかから毎年
保険契約者に**契約者配当金**を支払うことが一般的

4 保険事業の収益構造

生命保険会社の収益



4 保険事業の収益構造

保険会社の会計(貸借対照表)では、負債の大部分が保険契約準備金

・保険契約準備金とは、保険契約に基づく保険金支払などの**将来の責任**を果たすために、保険会社が決算期末に積立てる準備金のこと

・将来の責任額を計算することは、保険料算出と同様の作業。保険数理の専門家(アクチュアリー)が必要。

・収益性の判断・将来見通しは、将来の責任額の計算に基づく面がある。

資産の部	負債及び純資産の部
資 産 預貯金 有価証券 (債券、株式等) 土地・建物等	負 債 保険契約準備金 (支払備金) (責任準備金) (配当準備金)
	純 資 産 資本金 剰余金 など

4 保険事業の収益構造

保険会社の会計と銀行の会計(貸借対照表)

保険会社

資産の部	負債及び純資産の部
資 産 預貯金 貸付金 有価証券 (債券、 株式等) 土地・建物等	負 債 保険契約準備金 (支払備金) (責任準備金) (配当準備金)
	純 資 産 資本金 剰余金 など

銀行

資産の部	負債及び純資産の部
資 産 貸出金 有価証券 (債券、 株式等) 貸倒引当金 (▽)	負 債 預金
	純 資 産 資本金 剰余金 など